

長崎 検定

一級 さん

Vol.26

長崎入港雑記

戸田 敬明 さん

合格率12.1%。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した1級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一家言
ありそうです。
さくくはらんに寄稿願いました。

野母崎半島の八郎山系と西彼杵半島の一角をなす稲佐山、岩屋山を結ぶ山で囲まれた長崎。作家永井荷風は印象を「丁度田形劇場のやうに」と記している。鶴の港と呼ばれた天然の良港でもある。開港以来、442年、歴史的にも貴重な港であることにかわりはない。港則法の定義から、喫水の深い船舶が入り込める港又は外国船舶が常時出入りする港であつて、政令施行令・第2条・別表2(2)で定めるものを特定港といふ。84港(平成22年6月1日現在)あり、長崎県では、長崎港、佐世保港及び厳原港の3港が含まれる。空路から目的地に入るのも楽しいが、青い海、空、周辺の島々、行き交う船、白い航跡、すばらしい眺望を満喫し、時間をかけて船舶で向かうのも又楽しいものである。長崎には、過去何度か入港した経験があるので、長崎港の良さは理解しているつもりである。

「変針」10分前になりました。変針予定時刻
伊王島灯台を 度 マルに見て 度に変針、次の航程 マルです。「おもてかじ」航海長操艦で航海計画に沿って、目視、レーザー、GPS等を駆使して、港則法を遵守し、システムシップを発揮しながら安全に長崎港内に向かう。これは現在の入港風景である。歴史的背景を頭に浮かべ、記憶は新しいが長崎港に向かうことにする。 針路を変えること

右手に三菱重工業(株)長崎造船所香焼工場が見える。手前の丘に風力発電の白い風車が、さらに海側には長刀岩台跡がある。左手には航海安全を祈願する岬の白い聖母像がはきり視界に入ってくる。前方、港内の入口付近の島が入港の日印ともなる高鉾島で、キリシタン殉教の島でもある。後に台場が設置され、オランダ人はパーベックス(キリシタンの島)と呼んでいた。高鉾島を左に見て、前方に女神大橋が見える。橋の長さ、12889m、海面からの高さ65mで、夜はライトアップされ長崎観光の新しいシンボルとなっている。この地は、鎖国後の正保4年(1647年)ポルトガル船2隻が貿易を求め突然、長崎港に

入港した事件があり、幕府は、九州諸大名に港口の封鎖を命じ、軍勢は約4万8000人、船数896隻で警備を行い、神崎、女神間約500mの長崎湾口を閉鎖して脱出を防いだ記録が残されている。葡萄牙船入港付長崎警備図にこの様子が描かれている。この時代、港内外には、台場といふ大砲の陣地がまだ設置されていない時代である。魚見岳台場跡は、今春、友人と散策したが、良く整備され、台場跡、火薬庫石倉が残されており、ぜひ、見物をおすすめしたい。国指定史跡となっている。

当時の長崎の守りはどうなっていたのだろうか。鎖国後、幕府は、長崎港防衛のため、要衝の西泊と対岸の戸町に番所を設置し、福岡藩と佐賀藩に交代で隔年ごとに警備に当たらせている。佐賀、大村両藩は、所領が長崎にあつたため、それぞれ番所を設置しており、長崎奉行も独自に台場を設置している。さらに、平戸藩に命じて、承応3年(1654年)には、太田尾、女神、神崎、白崎、高鉾島、長刀岩、陰尾の長崎港内外の7箇所に台場を築造させた。これは古台場と呼ばれている。フートン写事件以後、すすれ、女神、神崎、高鉾島、陰尾の5箇所に新台場を増設し、さらに2年後、増台場として、神崎、魚見岳、高鉾島、長刀岩に台場を増設させた。以上のことから、長崎は、戸町、西泊の千人番所と港内外の台場と称される要塞に守られていたことになる。

最狭部を通過して、港内に入ると山々に囲まれた港町独特の風景が視界に入る。右手奥に小菅修船所跡、左手に三菱重工業(株)長崎造船所が見えてくる。日本海軍の戦艦武蔵が建造されたとは有名な、吉村昭著「戦艦武蔵ノイト」に当時のエピソードが残されている。建造時、遠望されるのを避けるため、船台の周囲にシロ口縄を大量に設置したと、米、英領事館が大浦海岸際にあつたことから、遮蔽(しゃへい)のため倉庫を建設している。更に、進水時、船体の長さ263mの巨体が一直線に進み対岸に激突するのを防止するため、船体の両側に重い鎖をつけて

船体の動きを止め対岸の手前で停止させている。これは対岸まで680mの距離で綿密な計算のもとではじきだされたもので予定していた海面とわずか1mしか違わない位置で停止したと、立神岸壁付近の海面は約30m上がり、波高最大58mに達し、約30分続いた。船台の反対側の浪の平海岸では一時的に発生した高潮のため床上まで海水が浸永した民家があつたといふ。当時の苦勞がしのばれる。

やがて、雄大な稲佐山が見えてくる。展望台から見る風景は、港内外が一望できる絶景である。夜景は、まさしく1000万ドルの価値がある。友人が来崎したら必ず案内する場所でもある。

さて、話が長くなりましたので、クラブ・園を右に見て入港することにしよう。前方に三色旗のオランダ国旗がたなびく出島和蘭商館跡が見えるはずであるが、今はビル谷間で見ることはできない。いつも考えることがある。もし、当時のままの形で残っていたら、ちうとロッキンを感じることが酷な話かもしれない。平成26年度に出島表門橋が新設される新聞記事を読んだことがある。大いに期待しよう。

参考文献

吉村 昭著「戦艦武蔵ノイト」
旗先弘紀・江越弘人著「白帆進進」



【プロフィール】
昭和23年 熊本県玉名市生まれ 64歳
昭和39年 海上自衛隊入隊
平成14年 海上自衛隊定年退職
平成22年 親和銀行退職
趣味: ゴルフ・テニス・釣り